

第2 教育研究団体の意見・評価

○ 全国公民科・社会科教育研究会

(代表者 大山 敏 会員数 約1,000人)

T E L 03-3333-7771

1 前 文

現行学習指導要領の下で全ての受験者に対して実施される共通テストは今年度が最後である。出題内容は、学習指導要領に掲げられた教科・科目のねらいや内容におおむね則しており、いわゆる難問・奇問とされる問題は見られず、高校生が学習した知識や技能、涵養した思考力や判断力に基づき、考えて解いていく工夫が施された標準的な問題である。問題作成にあたっては、大問ごとにリード文などをおして大問で問う分野や領域を示し、基礎的基本的な知識の確認と、習得した知識や技能を用いて思考力や判断力を働かせてその分野や領域への理解を完成させる工夫が求められるだけでなく、一定の平均点を確保し、試験実施時間内に解き終わることや高等学校での学習への影響を考慮するとともに、これから大学に進もうとする有為な若者へのメッセージを織り込むことなど、多くの努力を要したものと推察する。ここでは後期中等教育の現場にあって公民科を与える立場から意見と評価を申し述べる。

2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等への評価

高等学校公民科「倫理」での学習を踏まえ、基礎的基本的な知識・技能の確認から、習得した知識・技能を用いて思考力・判断力を働かせて解く問題までが、大問4、小問33に、出題分野の偏りなく出題されている。配点は出題分野の偏りはなく、考えて解く問いに配点を重くするなど工夫されている。大問ごとのリード文などでは高校生の日頃の学び、若しくは学びの延長にある状況を踏まえた設定を工夫してあり、各小問には更に資料やメモあるいは図表などが示され、単に基礎的基本的な知識や技能を問うことに終わらない工夫がある。その一方で、高等学校での学びが大学での研究や真理の探究にどのように発展していくのかを見通す知性あふれるリード文がないことや出題者の意図とは別に単なる小問集合に見えてしまう場合があること、あるいは約38ページに亘る問題を丁寧に読み解いていった場合に試験時間内に解き終わるのか、平均点を下げるために選択肢を安易に増やすことなど、検討すべきところではないだろうか。

第1問 会話を読み、資料などを参照しながら源流思想を考える問題。

問1 ギリシア哲学が他の文化圏に継承された事例の説明の正誤を問う基礎的基本的な知識の問い。イのイスラームが紛らわしい記述とする意見もあるが、ギリシア哲学がシーア派とスンナ派分断の原因とは考えられないだけに、正答は容易。世界史を履修していればいっそう平易。

問2 儒教思想と関連した思想についての説明の正誤を問う基礎的基本的な知識の問い。孟子は性善説で、礼を身に付け、教育によって欲を抑え、本来の善や仁の心を持つべきだとしたから、イは誤文。

問3 先行する思想を批判した古代思想家の確認を通して源流思想の基礎的基本的な知識を確認する。墨子の兼愛、アリストテレスのイデア論批判、ブッダは暴力を否定し慈悲を解くという説明は正しい。アウグスティヌスは「神の国」を出現させるものとしての教会の恩寵を解き、典礼を定めた。④のみ誤文。

問4 牟子『理惑論』からの抜粋の読解を前提に大学生と高校生の会話から、インド思想の輪廻やアートマンとブラフマンについての基礎的基本的な知識を問う。資料自体は見慣れなくともよく読めば答えられる。

問5 イエスの思想、隣人愛と分け隔てのない愛について基礎的基本的な知識を問う平易な問い。

問6 イスラームについてムハンマドが預言者であるという基礎的基本的な知識を問う平易な問い。

問7 ギリシアの自然哲学者の主張と高校生のノートを読み比べながら、ミュトスではなくロゴスで語ろうとしたことや神観念に基づいた自然観との結びつきを読み取る問い。平易。

問8 『スッタニパータ』から苦しみが執着に由来する資料と竜樹『中論』から行為と行為者の縁についての資料を読み、大学生と高校生の会話から、ブッダが因果関係に基づいた実践を教えたこと、資料2の読解、ブッダの思想が継承されていく過程で修正や解釈が加えられ完成していったことが分かる思考力判断力の問い。これまであまり見られなかった形式で、高校生は解くのに手間取ったかもしれない。

第2問 会話文を読み、資料などを参照しながら日本思想を考える問題。

問1 日本の神々と災害についての説明として適当なものを選ぶ問い。折口信夫の「まれびと」や柳田国男の『先祖の話』など基礎的基本的な知識を問う。

問2 選択肢の内容からアの奈良時代は鎮護国家であるから誤文と分かり、イの空海はやや難しいものの正文と分かる。ウは正文のようにもみえるが源信は観想念仏が中心で法然に至って専修念仏となると考えて誤文と判断する。ウを誤文とするのは難しい。

問3 鴨長明『方丈記』と吉田兼好『徒然草』の一節を読み、読み取れる内容の説明として適当なものを選ぶ読解力の問い。資料文は読みやすく平易だが、無常観について正確な知識が求められた。

問4 江戸時代の儒教について基礎的基本的な知識を問う。正確な理解が求められた。

問5 石田梅岩についての説明として適当なものを選ぶ基礎的基本的な知識の問い。梅岩は封建的な身分制度を否定したわけではないのでアは誤文、無鬼論は山片蟠桃の主張なのでエは誤文と分かる。

問6 井上毅と横井小楠の対話から横井の思想と資料の説明として適当なものを選ぶ思考力判断力の問い。横井は儒教の立場から公武合体をめざしたことを理解した上で、資料を正確に読めれば正答できる。ただし、横井が問われることは珍しく、対策していなかった高校生には難問。

問7 日本近現代思想から平和を説いた人々について適当なものを選ぶ基礎的基本的な知識の問い。問われた思想家は、石橋湛山、丸山真男、幸徳秋水及び与謝野晶子である。

問8 吉野源三郎『人間の尊さを守ろう』の一節を示し、内容に合致するものを選ぶ読解力の問い。平易ながら大切な内容を問う。

第3問 会話文を読み、資料などを参照しながら西洋思想を考える問題。

問1 ルネサンス芸術の特色について基礎的基本的な知識を問う。④の「アテネの学堂」でキリスト教の影響が見られるのは不自然と分かる。

問2 宗教改革の影響についての基礎的基本的な知識を問う。アはウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』から誤文と分かり、ウはルネサンス期の「万能人」とプロテスタントの「職業人」とを混乱させる意図が見受けられる。

問3 カントについてのふたりの会話と、資料『判断力批判』から、カントの思想と抜粋部から読み取れる説明として適当なものを選ぶ問い。資料自体が難しく加えて知識も求められ、

高校生には難しい。

問4 ヒュームの一節を読み、内容の合致するものを選ぶ読解力の問い。平易ではあるが時間を要する。

問5 ルソー『人間不平等起源論』を読み、3人の会話からルソーの思想に迫る問い。熟読せずに「一般意志」に飛びつかせない工夫は良いが、基礎的基本的な知識で解けてしまう。

問6 ルサンチマンに基づいているとニーチェが批判した思想、すなわちキリスト教について述べている選択肢を選ぶ。選択肢の4ついずれもニーチェの思想に関して述べているだけに、やや難しいか。問いの表現として、「ルサンチマンに基づいているとニーチェが批判した思想の例」は「ニーチェが批判したルサンチマンの例」とすべきだろう。

問7 J. S. ミルの思想について問う。アが正文であることは容易。イは功利主義が動機に触れる点に違和感があり、まして利他的な動機…とあることで誤文と分かる。ウは多数者の専制を危惧することや、他者への無関心…でミルの思想ではないと分かる。平易だが丁寧に選択肢を読まないと正答には至らない工夫がある。

問8 会話の読解とまとめのノートの読解から適切な表現を選ぶ読解力の問い。平易ではあるが時間を要する。

第4問 会話を読み、資料などを参照しながら青年期や現代倫理を考える問題。

問1 二人の高校生の対話を整理すべく、一人の高校生のメモからフランクとヴァイツェッカーの主張を選ぶ読解力の問い。

問2 現代日本の家庭の変化について説明したものを選ぶ思考力判断力の問い。

問3 現代の情報技術についての説明でアとウは簡単に正誤判定できたと考えられる。ブースティンについては知らない高校生は多かったのではないか。

問4 令和7年度共通テスト「公共、倫理」を視野に入れた出題と感じた高校生は多いだろう。選択肢自体は選びやすいが、資料から正確に読み取る力、統計やデータ分析の手法などが求められた。

問5, 6 青年期の基礎的基本的な知識が問われた。

問7 (1) ハイデガーの思想に関する正確な知識を問う。存在忘却や故郷の喪失など用語の正確な理解がないと判断は難しい。

(2) 資料を正確に読めれば正答は容易。

問8 会話文の内容を正確に把握していれば空所に適切な表現は入る。決して難しくはないが時間を要する。

3 総評・まとめ

学習指導要領に準拠しつつ、高等学校で習得する知識・技能と習得した知識・技能を用いて思考力・判断力を働かせて問題を解いていくことをとおして、これから大学で学ぼうとする高校生が身に付けるべきものの見方や考え方を示している。この科目において学習する内容から偏りなく出題され、難易度も標準的である。

4 今後の共通テストへの要望

共通テストの後期中等教育に及ぼす影響はきわめて大きい。出題内容や出題形式などは1月に実施された試験が4月以降の授業を左右することも少なくない。共通テストは来年度から新教育課程に則した出題になる。従前にもまして、いっそう良問の出題に心を砕いてほしい。全ての問いを解き終わって得られる教科・科目の目標やねらいの達成、大問のリードと小問の有機的な関係、共通

テストでの学びが大学や大学院での学びや研究，真理の探究に繋がる研究者からのメッセージなど，単なるに入学試験としての性格以上の教育に関する重い役割を担っていることを十分に理解し問題作成にあたっていただきたい。共通テスト受験という経験を通して有為な若人を育成する使命を負うのは，高等教育にある出題者の先生方も後期中等教育の現場にある教員も同じである。